三島地区環境保全推進協議会

Think Globally
考えは地球規模で

INDEX

保全協設立20周年を迎えて …… 2
保全協20年のあゆみ …… 3
ISO 14001 …… 11
役員・会員名簿 …… 15
「環境対策先進都市・みしま」を目指して …… 17
かけがえのない地球のために見逃せない事実があります …… 19

Act Locally
行動は足元から

保全協設立 20周年を迎えて

会長 福田 晃一

三島地区環境保全推進協議会(略称:保全協)設立20周年を記念して、本誌を発刊するにあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

保全協は昭和54年に地域の環境保全の推進を図るために、三島市と公害防止協定を結んだ企業や、本会の主旨に賛同する事業所の代表でもって設立され、会員相互の環境諸問題の意見交換や公害防止技術の研鑽に努めると共に、市の公害防止の諸施策に協力しながら環境保全活動に真剣に取り組んできました。

しかしながら、新しい世紀が目前に迫った今、今日の環境問題は単に事業活動に起因する従来の水質や大気等の公害問題のみならず、日常生活を含めた様々な活動に起因する「廃棄物問題」「地球温暖化問題」「エネルギー問題」などが地球規模で生じており、私たちの将来にも大きな問題を投げかけております。

私たちは社会の一員としての責任を自覚し、これらの諸問題を解決するためにどうあるべきかを真剣に考え、我々事業者はもとより、市行政、市民一体となって、環境にやさしい生活を目指し省エネルギー、廃棄物削減、化学物質の排出抑制、リサイクルなどの資源循環型社会への転換を図る必要があります。このため保全協としても環境活動の一層の充実に努めてまいります。

今後とも皆様方の当保全協へのご支援、ご指導、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げまして、発刊のご挨拶とさせていただきます。

●1979－1983

保全協20年のあゆみ

79 昭和54年

4月26日　設立総会(於:市立働く婦人の家)
5月11日　第1回理事会
(定例会議として年度内に第1回～第5回までの理事会を開催)
6月 5日　環境週間行事への参加
～11日　大場川堤防の清掃と鯉の放流、公害問題講演会、
公害防止施設の点検他(継続事業・以降毎年実施)
7月25日　会報　創刊号発行
(継続事業・会報は年2回発行)
8月 2日　環境庁長官表彰受賞者
市川藤雄さんを祝う会
(於:リオドライブイン)
8月10日　講演会(於:市立働く婦人の家)
「最近の公害行政について」
県生活環境部水質保全課
主幹　田中昌氏
9月 4日　先進施設視察(地区内)
森永製菓㈱三島工場三島市浄化センター
10月29日　騒音・振動研修会(於:市立働く婦人の家)
「騒音・振動対策の進め方」
県公害防止センター特殊公害課長　浅羽幸雄氏
「騒音防止の実例と効果」東レ㈱、日東紡績㈱
「振動防止の実例と効果」横浜ゴム㈱、昭和電線電纜㈱
11月16日　先進施設視察(県外)　横須賀市長坂埋立地浄化センター

昭和54年4月26日設立総会

6月環境週間行事大場川の清掃

80 昭和55年

3月11日　国際公害防止ショー見学東京国際貿易センター(晴海)
4月24日　昭和55年度定期総会(於:田代パレス)(継続事業・以降毎年実施)
9月 5日　講演会(於:市立社会福祉会館)
「最近の公害行政について」
県公害防止センター所長　天野隆世氏
9月16日　先進施設視察(地区内)　東洋醸造株式会社(大仁町)
10月29日　先進施設視察　藤枝市
藤枝環境管理センター(2市2町共同し尿処理施設)
11月17日　研修会(於:市立働く婦人の家)
「三島市の公害行政について」大気汚染・水質汚濁・騒音・振動と
54年度公害苦情等　映画上映「合成洗剤と水質汚濁」

81 昭和56年

4月23日　昭和56年度定期総会(於:田代パレス)
5月 7日　工場緑化病虫害防除講習会(於:三島市みどり育苗センター)
病虫害、農薬散布、動力噴霧器について
6月16日　国際公害防止ショー見学
9月11日　講演会(於:市立働く婦人の家)
「公害行政の現状と動向」静岡県大気保全課　課長補佐　中井義夫氏
9月24日　先進施設視察(地区内)　東芝機械㈱沼津事業所
10月29日　先進施設視察　南足柄市　富士写真フィルム㈱足柄工場
11月17日　研修会(於:市立社会福祉会館)
「三島市地域防災計画　東海大地震対策編5編、災害応急対策について」
三島市安全課長　事例発表
「わが社の地震対策と交通安全対策」(マイカー中心)横浜ゴム㈱
「排水能力増強に伴う電力抑制について」明治ケンコーハム㈱

三島市清掃センター視察

人と自然が創り出す心地よい空間を求めて

「保全協だより」第1号表紙の写真

研修会で勉強中

82 昭和57年

4月22日　昭和57年度定期総会(於:田代パレス)
6月15日　国際公害防止ショー見学と
東電㈱大塚支社省エネ・モデル・ビル・見学
(東京晴海並びに豊島区北大塚)
8月23日　保全協会旗図案の募集
9月13日　先進施設の視察(地区内)
明治ケンコーハム㈱三島工場　山中城跡公園
9月30日　保全協会旗募集締切日　応募総数32点
10月26日　会報　第10号発行　保全協会旗図案入賞者表彰
優秀作品 1点　佳作 3点
講演会「産業廃棄物の現状と動向」
静岡県環境衛生課産業廃棄物係長　木村仁己氏
11月11日　先進施設視察
～12日　筑波研究学園都市(茨城県桜村)

83 昭和58年

5月18日　昭和58年度定期総会(於:田代パレス)
6月14日　国際公害防止ショー及び神奈川県公害センター見学
8月26日　先進施設の視察(県外)
～27日　カゴメトマトジュース㈱富士見工場及び
㈱諏訪精工舎(長野県諏訪市)
9月21日　先進施設の視察(地区内)　横浜ゴム㈱三島工場
9月26日　狩水協夏季研修会
～27日　(於:伊豆長岡町　静雲荘)
「よりよい環境を考える」公害防止事業団常任顧問
平野侃三氏　環境映画「川が結ぶ」
11月 9日　講演会「三島周辺の自然と環境」(水界生物を中心として)
日本大学文理学部助教授　安原健允氏

「よりよい環境を求めて」

元三島市経済部長　足立金光

保全協が20周年を迎えるとの話を聞き、あれからもう20年が過ぎたのかと思うと、月日の過ぎる早さに改めて驚き、つくづく自分自身の年齢を感ずる今日この頃です。

当時、私は安全課の公害係長で事務局の責任者という立場にあり、先輩たちが築いてきたものをどう守っていくか、そしてその中で少しでも前へ進むにはどうしたらいいのか、毎日模索し考えて続けていました。そうした中、でてきたのが市内の企業及び周辺の企業がお互いに情報交換をしたり、それぞれの研究、抱えている悩み、成果などを話し合える場を作ろうというものでした。

市内の主だった企業に相談をかけましたが、「どうせ会費を納入するだけの組織になってしまう。」という声があり、また「市役所がやることだから従うしかないだろう。」とかいう言葉への反発心から、とにかくひとつづつでも実績を作っていくしかないと思いました。

まず、実現可能なものから計画すると同時に、その実現にはなんといっても会員相互の人間関係の確立がなにより重要であり、また事務局主導型ではなく集団参加型にするためにそれぞれの責任分担の明確化と交流の促進を目指しました。

今は、取り壊されて既にありませんが、「働く婦人の家」で昭和54年4月、保全協の全会員が出席して設立総会が盛大に行われ大成功でしたが、これからどう具体的に実績づくりをしていけばいいのか一抹の不安はありました。

三つの部会を立ち上げ、情報交換の媒体である会報「保全協だより」の発行、講演会や県内外視察等とにかくやれるものから実行に移していきました。

特に会報は、初めてのことで文才があるわけでもなく、筆順新例解辞典を購入し、当用漢字、送りがな、割付、誤字脱字、文章のチェック・修正等々多くの作業をこなしました。しかし反面、会員の方々がいつも原稿を出してくれ、協力してくれたため、編集に困ることはありませんでした。

各種行事への積極的な参加、会員から募集した『保全協旗』の制作、先進地視察による一層の親睦、とても懐かしく思い出すと限りがありません。最後に、20年間みなさまの力で築き上げた保全協を礎として、よりよい環境づくりにご尽力くださることをお願いし、これからも保全協はじめ会員の皆様のますますのご発展をお祈り申し上げます。

●1984—1988

保全協20年のあゆみ

錦鯉の放流

84 昭和59年

3月23日　研修会(於:市立働く婦人の家)
「わが社の工場緑化について」東レ㈱三島工場
「わが社の公害防止対策について」東洋ベスロン㈱三島工場
「ポンプの種類と用途について」㈱電業社機械製作所三島工場
4月20日　快適環境展(東京晴海)及びキリン麦酒㈱横浜工場見学
4月22日　第3回三島の川をきれいにする奉仕活動に参加(桜川)(継続事業・以降毎年実施)
4月24日　昭和59年度定期総会(於:田代パレス)
5月18日　第1回理事会(定例会議として年度内に第1回～第5回までの理事会を開催)
6月 5日　環境週間行事への参加
～11日　ノーカーデー、環境保全講演会、大場川堤防の清掃と
錦鯉の放流　公害防止施設の点検(継続事業・以降毎年実施)
8月24日　先進施設視察(県外)
～25日　日本原子力発電㈱敦賀発電所(福井県敦賀市)
9月18日　狩水協夏季研修会(於:修善寺町　桂川)
～19日　「地域の開発と環境保全」東京工業大学講師　磯辺行久氏
環境映画「湖はいま」、「環境アセスメント」
10月19日　講演会　三島市・保全協共催　「地域開発と環境保全」東京工業大学講師　磯辺行久氏
11月20日　狩水協相互技術研究会(於:関東自動車工業㈱東富士工場)と
(裾野市)工場見学、4企業の研究事例発表会
11月22日　研修会(於:東京電気㈱三島工場)「省エネ照明について」東京電気㈱三島工場
「最近のカラー処理の状況について」㈱フジカラー三島

85 昭和60年

1月31日　先進施設視察(地区内)　立石電機㈱三島事業所
2月13日　環境美化活動により県知事表彰
4月26日　昭和60年度定期総会(於:雅叙園ホテル)
7月 7日　県主催による「狩野川の集い」を実施　河川の清掃他
9月 5日　県外視察研修
～6日　筑波国際科学技術博覧会
10月15日　狩水協夏季研修会(於:伊豆長岡町　静雲荘)
～16日　「狩野川は何を見たか」前沼津市駿河図書館長　辻　眞澄氏
東部流域下水道処理場視察
10月18日　講演会(於:市教育委員会会議室)「地形に学ぶわが町みしま」郷土史家　秋津　亘氏
11月21日　研修会(於:三島市民体育館)
「脱脂廃水の処理について」三菱アルミニウム㈱富士製作所　横山安全環境課長
「河川生物環境調査について」市安全課　千葉技術主査

86 昭和61年

1月30日　先進施設視察(地区内)　三菱アルミニウム㈱富士製作所
4月23日　昭和61年度定期総会(於:雅叙園ホテル)
6月 1日　県主催による「狩野川の集い」を実施
9月 5日　先進施設視察(県外)
～6日　トヨタ自動車㈱衣浦工場　中部電力㈱浜岡原子力発電所
9月25日　狩水協夏季研修会(於:市内竹倉　錦昌館)
～26日　「狩野川流域における自然と生物環境について」
日本大学教授　安原健允先生　視察　国立遺伝学研究所
10月24日　環境保全講演会「生活排水対策について」
県水質保全課水質企画係長　横山澄夫氏
11月15日　研修会(於:森永製菓㈱三島工場)
「食品工場の廃水処理設備について」森永製菓㈱三島工場施設課長　中込章隆氏
「柿田川の現状と今後の水利用について」県柿田川水道事務所堂庭出張所長　佐々木厚雄氏

保全協会員相互研修会

大場川の堤防草刈

時にはやさしく
時には強く。

87 昭和62年

1月30日　先進施設視察(地区内)　㈱電業社機械製作所三島事業所
2月20日　狩水協相互技術研究会(於:清水町長沢区公民館)　事例発表
「総合排水処理場省エネルギー対策について」
トヨタ自動車㈱東富士研究所　安全衛生課　山田　勲氏
「ぬまづ河川環境ガイドについて」沼津市環境保全課　大谷利雄氏
「水の価値と海外援助」タイに水タンクを送る三島市民の会
事務局長　関野　康氏
「柿田川賛歌(ビデオ)」清水町保健衛生課　安保弘道氏
5月 8日　昭和62年度定期総会(於:雅叙園ホテル)

県外視察(滋賀県)

8月24日　狩水協夏季研修会(於:御殿場市　御殿場館別館)
～25日　「静岡県環境計画」について
県環境企画課主幹　山杢恵男氏
視察　㈱リコー御殿場工場
9月 4日　先進施設視察(県外)
～5日　東京電力㈱袖ヶ浦火力発電所　新東京国際空港
10月30日　環境保全講演会
「騒音・振動の最近の課題」
㈶小林理学研究所常任理事　時田保夫氏
11月17日　研修会(於:三島工業団地(協))
「騒音・振動対策の取り組みについて」
丸善工業㈱専務　諏訪部光市氏
シルバー工業㈱社長　高橋登志雄氏

88 昭和63年

1月21日　先進施設視察(地区内)
三島終末処理場、三島市衛生プラント視察
4月27日　昭和63年度定期総会(於:雅叙園ホテル)
9月 2日　先進施設視察(地区外)
～3日　ヤマハ発動機㈱第5工場　ぎふ中部未来博覧会
10月24日　狩水協研修会(於:裾野市役所)
～25日　「川と生活環境」県環境保全課技監　中井義夫氏
視察　㈱ヤクルト本社富士裾野工場
10月28日　環境保全講演会
「バイオテクノロジーを活用した排水処理」
国立公害研究所主任研究員　稲森悠平氏
11月22日　「環境保全のつどい」に参加
(於:県東部機械工業　健保・基金会館)

「保全協と私」

三島工業団地(協)　長沢和夫

月並みな言葉ですが、月日の経つのはなんと早いことか。ついこの間といった気もする平成元年10月に保全協設立10周年記念事業を開催してから10年が経過しました。

当時は、フロンガスによるオゾン層の破壊、二酸化炭素による地球温暖化、熱帯雨林の破壊等が問題となり、長期的な視野に立った地球環境対策が求められていました。そして10年、今日では「環境」をキーワードにした地球規模での環境保全が展開されています。企業活動においても今後環境を中心に、あるいはセットで事業を推進していかなければならない時代となりました。

私が保全協に参加したのは、それより大分前になりますが、長い保全協活動を通じて得たものは二つあります。一つは講演会・研修会・地区内外の先進事業所視察等で得た知識と環境保全に対する熱心な取り組みです。もう一つは、事務局・会員事業所の方々との出会いです。普段では話すこともない多くの方々と知り合い、語り、多くの情報も得ることができました。いわゆる横の繋(つな)がりです。転勤あるいは異動等で保全協活動から離れていった方も多くいますが、この出会いは今でも私の財産となっています。保全協は出会いの場でもあるのです。

私は仕事柄、他のエネルギー関連団体にも参加しておりますが、最近は他の団体でも環境・省エネをキーワードとした事業が多くなり、保全協の活動ともオーバーラップした部分が増えてきているように感じます。ともあれ、今後も保全協の一員として多くの知識を身につけ、多くの人と出会い、三島発の地球環境保全に少しでも貢献できたらと考えます。

●1989—1993

保全協20年のあゆみ

保全協10周年記念式典

89 平成元年

1月26日　先進施設視察(地区内)　三島沢地工業団地　伊豆島田浄水場
2月23日　狩水協相互技術研究会(於:東レ㈱経営研修センター)
　事例発表と講演会　映画会「柳川堀割物語」
3月24日　第5回理事会(定例会議として年度内に第1回～第5回までの理事会を開催)
4月26日　平成元年度定期総会(於:雅叙園ホテル)
5月14日　第9回三島の川をきれいにする奉仕活動に参加(桜川)(継続事業・以降毎年実施)
6月 4日　環境週間行事への参加
　～10日　大場川堤防の清掃と鯉の放流、環境週間記念講演会(継続事業・以降毎年実施)
9月 8日　先進施設視察(県外)
　～9日　㈱東芝京浜事業所　東芝科学館　横浜博覧会
10月27日　設立10周年記念式典(於:市立働く婦人の家)　昼食会(於:田代パレス)
　講演会(於:市立働く婦人の家)
　「住みよい環境をめざして」
　京都大学工学部教授　松井三郎氏
　記念誌発行

弛みない努力が実を結ぶ

90 平成2年

1月24日　先進施設視察(地区内)　三島市清掃センター
2月22日　狩水協相互技術研究会(於:特種製紙㈱三島工場)
　事例発表　「水処理工程の臭気減少対策について」
　東レ㈱三島工場環境管理課　芹沢博成氏
　「活性汚泥法による工場排水処理」
　㈱ヤクルト本社富士裾野工場施設管理課　奥井久志氏
5月 8日　平成2年度定期総会(於:雅叙園ホテル)
9月28日　先進施設視察(県外)
　～29日　エスビー食品㈱上田工場
10月12日　狩水協講演会(於:沼津市民文化センター)
　「身近な水環境から地球環境を保全・改善するために」東京農工大学教授　小倉紀雄氏
　「矢川からのメッセージ」北多摩二区生活者ネットワーク　上原公子氏
10月16日　平成2年度環境保全県民大会(於:静岡市民文化会館)(狩水協協賛)
10月30日　狩水協研修会(於:沼津市民文化センター)
　「籾殻燻炭を用いた水質浄化について」新潟県立向陽高校教諭　荒井六男氏
11月20日　狩水協講演会(於:沼津市民文化センター)「最近の環境問題について」県環境企画課技監　中井義夫氏
11月21日　講演会(於:市役所第1会議室)「ホタルと水辺の環境」愛蛍会・沼津源氏蛍保護研究会会長　大竹和男氏

91 平成3年

1月29日　先進施設視察(地区内)　㈱東洋検査センター　東洋醸造㈱
2月27日　狩水協相互技術研究会(於:御殿場市民会館)　事例発表
　「自社における環境保全対策について」東芝EMI㈱御殿場工場　マスタリング・センター所長　五味詩朗氏
　「テトラクロロエチレン溶剤回収装置の現状」㈱リコー沼津事業所環境安全課　斉藤　勝氏
5月10日　平成3年度定期総会(於:雅叙園ホテル)
9月 6日　先進施設視察(県外)
　～7日　福島県郡山市クラリオン㈱東北事業場
9月11日　狩水協講演会(於:沼津市役所)「産業廃棄物の問題について」
　静岡県環境文化部環境保全課　産業廃棄物対策室長　村井　勉氏
10月21日　講演会(於:市役所第1会議室)私の目から見た「日本の自然と文化」
　青山学院大学英語講師　ロバート・リィ・イエリン氏
10月24日　環境保全功労知事表彰受賞
10月28日　環境保全功労知事表彰の受賞を祝う集い(於:田代パレス)

市内河川清掃でのボランティア活動

表彰状

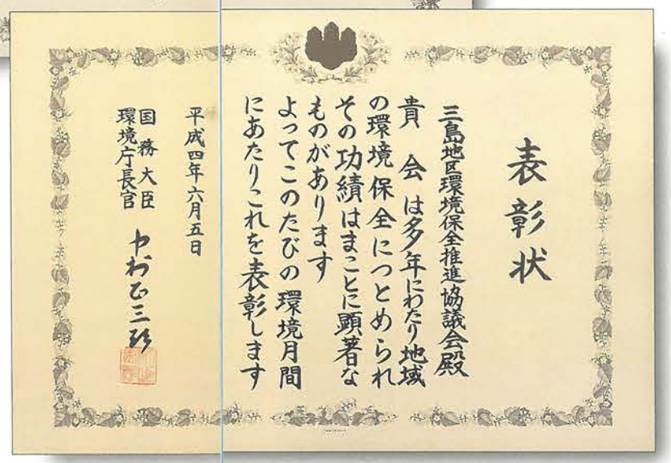
三島地区環境保全推進協議会様

貴協議会は永年にわたり地域の環境保全活動の推進に尽力されその功績はまことに顕著であります

よってここに表彰します

平成三年十月二十四日

静岡県知事 斉藤滋宣


表彰状

三島地区環境保全推進協議会殿

貴会は多年にわたり地域の環境保全につとめられその功績はまことに顕著なものがあります

よってこのたびの環境月間にあたりこれを表彰します

平成四年六月五日

国務大臣 環境庁長官 中村正三郎

平成3年県知事表彰状　平成4年大臣表彰状

91

11月 6日　狩水協視察研修会(於:大仁町町民会館)「産業廃棄物問題の現状と課題」
　㈱循環資源研究所長　村田徳治氏　視察　東洋検査センター・旭化成工業㈱大仁支社

92 平成4年

1月22日　先進施設視察(地区内)
　東芝機械㈱沼津事業所　愛鷹広域公園(あしたか球場)　厚生年金休暇センター
2月27日　狩水協相互技術研究会　事例発表「環境管理の推進～環境管理経費の抑制をテーマとして」
　東京電気㈱三島工場　山川信之氏　他3事例
5月 7日　平成4年度定期総会(於:雅叙園ホテル)
6月 5日　環境庁長官表彰受賞
6月16日　第2回環境保全シンポジウム共催
6月23日　環境庁長官表彰受賞祝賀会
　(於:みしまプラザホテル)
9月 4日　先進施設視察(県外)
　～5日　滋賀県大津市　東レ㈱滋賀事業場
11月 6日　講演会(於:市役所第1会議室)
　「地下水と節水型社会」
　元東海大学教授　柴崎達雄氏
11月20日　狩水協・五市四町協　合同視察研修会
　神奈川県環境部環境科学センター
　三友プラントサービス㈱横浜工場

県外視察　信州博東芝科学館

93 平成5年

1月22日　先進施設視察(地区内)　東京電気㈱三島工場　地球環境セミナー参加
2月26日　狩水協相互技術研修会　事例発表
　「環境保全に配慮した地域冷暖房システムについて」
　東京電力㈱営業開発部　鎌倉氏
　講演会「水環境基準の見直しについて」国立環境研究所　中杉総合研究官
5月11日　平成5年度定期総会(於:田代パレス)
6月23日　第3回環境保全シンポジウム共催(於:裾野市民文化センター)
　基調講演「富士山と水」　土隆一名誉教授
　パネルディスカッション「河川は今～環境対策への私たちの課題」
9月 3日　先進施設視察(県外)
　～4日　長野県駒ヶ根市・松本市　養命酒製造㈱駒ヶ根工場　長野信州博
9月25日　第5回富士山シンポジウム開催
11月12日　講演会(於:三島市民文化会館大会議室)
　「地球環境を考える」日本学術会議連絡委員会委員
　日本環境衛生センター　氷見康二氏
11月19日　地球環境フォーラム(於:静岡県女性総合センター)
　表彰　環境保全功労知事表彰・褒賞　事例発表
　「三島ホタルの会」他3例　講演「環境へ負荷の少ない社会」
12月15日　大気汚染防止推進月間記念事業に参加

「環境保全推進協議会設立時に思う」

推進協議会理事　加藤守一

設立当時(昭和五四年)、市安全課足立係長さんが工場に見えて、三島市に環境保全推進協議会を設立したいので、めっき組合も理事を一名出してくれるようお願いしたいと申し入れがありました。予想していない事では有りましたが、咄嗟に大変結構な団体を作りますね、めっき組合も、この会に参加させていただきますとお返事しました。

しかし、当時、水質汚濁防止法が狩野川水域に適用され、公害管理者を設置することが義務づけられ、このための受験準備で大変な時期でありました。また、年々大場川が汚れ、どぶ川のようになり、悪臭が誰にでも感じられるようになり大変なことだと思うようになっていました。大場川流域に、めっき工場が2社、大手工場が3社ぐらいだったと思います。

この悪臭については、思い出があります。或る夜、お宅の工場からガスが漏れて匂っていると、町内会の人達に起こされました。しかし、自社では、ガスは使用していませんと、返事をした記憶が今でも鮮明に思い出されます。

その頃、市川藤夫さん(鯉のおじさんと呼ばれていました。)の考えで、大場川に緋鯉を、放流、水の汚れの、一つのバロメーターにしました。

しかし、今日では、その役目も終わったのではないでしょうか。今後は、緋鯉自体がある意味で公害にされてしまうのではないかと私自身は心配です。

大場川の浄化も進み、清流を取り戻した川を見るとき、一時期は大変な川が、昔のきれいな川になりつつ有り、いつ迄もきれいなままでと願っております。

●1994—1999

保全協20年のあゆみ

94 平成6年

1月18日　横瀬川・大場川流域水循環システム対策協議会第1回協議会（発足）を取材
1月27日　先進施設視察（地区内）　㈱ヤクルト本社富士裾野工場
3月 1日　狩水協相互技術研修会（三島市）　事例発表
「排水の質向上と管理」東芝EMI㈱御殿場工場　五味氏
「焼却炉更新の検討項目と結果」三菱アルミニウム㈱富士製作所　横山氏
現地視察　源兵衛川他水辺整備事業
3月23日　第5回理事会（定例会議として年度内に第1回～第5回までの理事会を開催）
5月 8日　第14回三島の川をきれいにする奉仕活動に参加（桜川）
（継続事業・以降毎年実施）
5月26日　平成6年度定期総会（於：三島市民文化会館）
6月 5日　大場川堤防の清掃と鯉の放流（継続事業）
7月 5日　第4回環境保全シンポジウム共催　（於：御殿場市民会館）
基調講演「かけがえのない自然を次の世代に」
環境アセスメントセンター塩坂氏　事例発表「富士山の自然保護」他3例
9月 9日　先進施設視察（県外）　三重県
～10日　㈶国際環境技術移転研究センター　日本鋼管㈱津製作所　三重まつり博
10月14日　狩水協先進施設視察（愛知県）　トヨタ㈱本社トヨタ会館　トヨタ環境センター
10月28日　講演会（於：三島市役所第1会議室）
「快適な水辺環境づくり」二松学舎大学講師　君塚芳輝氏
11月20日　大気汚染防止推進月間記念事業（於：静岡駿府公園）

95 平成7年

1月27日　先進施設視察（地区内）
中部電力㈱新清水火力発電所　東海道広重美術館他
2月17日　狩水協相互技術研修会　㈱ヤクルト本社富士裾野工場
3月14日　環境保全功労知事表彰　㈱電業社機械製作所三島事業所
所長　長難波博之氏（当会副会長）受賞
5月23日　平成7年度定期総会（於：雅叙園ホテル）
6月 9日　環境月間記念講演会「エコライフとエコマネジメント」
環境事業団　藤田成吉氏
7月14日　第5回環境保全シンポジウム共催
（於：コミュニティ長泉）
基調講演「循環型社会を目指して」
桜美林大学　三島次郎教授　他事例発表3件
9月 7日　先進施設視察（県外）
～8日　千葉県栗源町東部堆肥生産組合浄化処理施設
三菱化学㈱鹿島事業所
10月25日　狩水協先進施設視察（地区内）
浜名湖競艇場　新居関所跡資料館
11月24日　講演会（於：三島市立社会福祉会館）
「大場川と地域住民との関わり」東京農工大学農学部教授　小倉紀雄氏
12月23日　河川水質調査会　源兵衛川～桜川～大場川

96 平成8年

1月26日　先進施設視察（地区内）　富士通㈱沼津工場
駿河平自然公園　ベルナール・ビュフェ美術館
2月18日　大気汚染防止推進フェア参加（みしま生活展'96同時開催）（於：三島市民体育館）
5月24日　平成8年度定期総会（於：雅叙園ホテル）
6月10日　環境月間記念講演会（於：市役所第1会議室）
「見近な環境を考える」衣食住の実態をめぐって
商品科学研究所　藤原房子氏

「水遊びする子供たち　白滝公園」

▲源兵衛川水質調査会

◀県外視察
長良川河口堰

環境保全講演会

96

7月24日　第6回環境保全シンポジウム共催　（於：伊豆長岡町総合会館）
基調講演　桜美林大学　三島次郎教授　パネルディスカッション
7月25日　会報第50号記念号発行
7月28日　大場川鯉の放流
7月30日　河川水質調査会の実施
8月 6日　親子河川水生生物観察会の実施
8月30日　水環境セミナー'96（於：沼津市民文化センター）基調講演　藤村コノエ氏
9月 5日　先進施設視察（県外）
～6日　長良川河口堰・木曽三川公園
10月19日　大場川まつり　アドバルーン・絵画表彰他
10月22日　講演会（於：三島市役所第1会議室）「環境にやさしい活動の実践」
静岡県環境保全協会　専務理事　兼子博吉氏
11月 1日　狩水協先進施設視察（地区内）　日清食品㈱静岡工場
12月18日　狩水協30周年記念河川環境講演会（於：清水町福祉センター）
「河川事業と環境」芝浦工業大学教授　高橋　裕氏

97 平成9年

1月30日　先進施設視察（地区内）
清水エル・エヌ・ジー㈱袖師基地　久能山東照宮自然林観察
3月11日　狩水協相互技術研修会（於：静岡県沼津工業技術センター）事例発表他
5月30日　平成9年度定期総会（於：雅叙園ホテル）
6月 5日　環境の日県民大会参加
8月 6日　河川水生生物観察会の実施（於：源兵衛川）
8月30日　第2回大場川まつり
9月 4日　先進施設視察（県外）
～5日　地球環境パートナーシッププラザ　ウィズペットボトルリサイクル㈱
9月12日　エコクッキング講習会（家庭排水浄化推進員）の支援
神奈川県立栄養短期大　力石教授
10月24日　環境保全講演会（於：三島市生涯学習センター）
「低公害車の現状と未来」㈶日本ガス協会　斉藤憲一氏

98 平成10年

3月　地球温暖化防止100万人の誓い 8,155名の参加
5月25日　平成10年度定期総会（於：雅叙園ホテル）
6月11日　三島市地球温暖化防止都市宣言市民大会協賛と協力
8月22日　夏休み親水事業「こども宝さがし大会」
～23日　（於：楽寿園小浜池）
9月 3日　先進施設視察（県外）
～4日　岐阜県郡上八幡町他
9月14日　静岡環境フェア'98見学
10月23日　講演会（於：三島市社会福祉会館）
「地球温暖化防止に向けて」環境庁環境研究所　川島康子氏

「こども宝さがし大会　楽寿園」

99 平成11年

2月 2日　先進施設視察（地区内）　東静岡リサイクパーク　関東自動車工業㈱東富士工場

「地球環境草の根活動」

静岡ガス　松原義三

静岡ガスが保全協に加入したのは比較的最近であり、従って私自身は保全協運営の苦労というものを知りません。しかし、狩野川水系の水質保全を図り、その推進に努力するという事がどのような労力を必要とする事なのか、容易に想像がつきます。

時代の変化と共に、環境問題は水質だけでなく、大気も含むようになり、そして今では地球温暖化という、地域・国という境界を飛び越えた地球全体の問題となっています。

環境問題が地球規模であっても、その解決は人間が草の根活動を地道に長く継続していくしか他に方策はありません。その意味で、狩野川水系という地域問題から出発した「保全協」は根本的に意義のあることだと思っています。

保全協に加入してから、県外先進施設の視察に何回か参加させて頂きました。

それぞれに有意義な研修旅行でしたが、中でもペットボトルのリサイクルを手掛けている「ウィズペットボトルリサイクル（株）」の見学が印象に残っています。ペットボトルを洗浄し、細断して、化学繊維の原料としてリサイクルしている工場を見た訳ですが、私自身「こうすれば良いのに」と漠然と思っていた事が、既に現実のものとして実行されているという事実に驚きを感じました。そして同時に、いつの日か地球環境は元の健全な状態に戻されるだろうという期待と確心も得ました。

他の多くの視察先でも、それぞれに環境問題に取り組む活動が始まっていて、前述の草の活動が実施されていました。

保全協を始め、各地、各組織でこのような活動が展開されているのは心強い限りです。又、そのような施設を選定し、視察旅行を設定している事務局の担当の方の見識の深さに感服しています。

個人的趣味として、私は鮎の友釣りをやっています。夏の強い日射しの元、瀬の川音、虫や鳥の鳴声、山の深い緑に包まれながら、川面に竿を出している時、自然の恵みというものの大切さを言葉でなく、肌で感じます。

鮎は清流にしか住みません。いつまでも狩野川が鮎が住む川であり続けますよう願いを込めて、今後も保全協の活動の一助となるよう努力していきたいと思っています。

ISO 14001

ISOとは、「国際標準化機構」のことで本部はジュネーブにあります。
その目的は「もの」や「サービス」の世界標準を制定することにより、
スムーズな国際間の活動を助長することにあります。
「ISO 14001」は、環境を保全するため事業者自らが、方針や目標値を設定し、
具体的に実行していくための有効な手段の1つで、1996年に発行されました。

Plan
計　画

Do
実施および運用

Check
点検・是正

Action
見直しにより次のレベルへ

継続的改善

ISO 14001の認証取得に関する取組み経過、苦労、メリット等について

東芝テック株式会社　三島事業所

1 取組み経過

(1) `95年(H7年)9月にトップの方針により、東芝テック全体で ISO 14001認証取得キックオフ大会を開催。
(2) `95年10月には三島事業所のISO 14001認証取得キックオフ大会を開催。
(3) `95年10月～`96年3月まで、事務局とプロジェクトチームで推進計画表を作成し、ISOの要求事項、環境基本方針の作り方、環境影響評価の実施方法、内部監査の実施方法等について認識を習得。
(4) `96年4月～`96年9月まで、環境影響評価の実施、マネジメントマニュアルの作成、環境基本方針発行、共通規定の発行、　内部環境監査の実施、部課長全員に対する環境マネジメントシステムについて教育を実施。その間`96年8月には　審査機関に審査申請書を提出。
(5) `96年11月に環境マニュアルのチェックを実施。
(6) `96年12月に予備審査を受審。
(7) `97年1月(1/12～13)に事前審査を受審。
(8) `97年3月(3/12～14)に本審査を受審。
(9) `97年3月31日に「ISO 14001の認証取得」。登録証番号　JQA-E-80030

2 苦労した点

大きな問題は三点ありました。

第一は全員が、「ISO 14001(環境マネジメントシステム)」を良く理解していなかった点です。そこでまず事務局が用語の定義、説明等初歩から勉強し、部課長の教育を実施した後、事業所の敷地内に在籍する全員に教育を徹底し、理解してもらうという手順を踏まなければなりませんでした。

第二はマネジメントシステムの構築です。特に環境影響評価のシステム構築は、試行錯誤の末、数回の見直しを余儀なくされたため、予定通り進めるのに苦労しました。このシステムに関しては、現在も見直しを実施しています。

第三は全員参加のシステム作りです。全員の参加を促すために障害となったのは、「物作りに直接関係ないことをしなければならない」という考え方でした。しかし、環境マネジメントシステムは、ヨーロッパを始め、世界的に導入されつつあり、企業が、地球環境を守るという社会に対する責任という意味で重要ですので、全員参加で実施しなければならないことを徹底しました。その手段としては、環境コーナーの設置、環境ニュースの発行、環境標語の募集、環境クイズの実施、ボトムアップのための分科会活動の実施をしました。

3 認証取得後のメリット

(1) 環境保全に対する社員のモラルの向上により、下記の実績がでています。
　①省エネルギー意識の向上により電力・ガス・重油使用量の削減。
　②排出物のリサイクル率の向上。(廃棄物量の削減)
　③有害化学物質使用量の削減。
　④環境施設の改善により、環境リスクの低減。
　⑤事業所内の3S(整理・整頓・清掃)と「見る、見える、見せる管理」の定着化。
(2) 認証取得により当社の製品受注条件の一つを満たすことができた。
(3) ECP(環境調和型製品)及びエコ製品への開発スピードアップが図れている。
(4) 環境保全活動状況に関し、他社から多数の事業所見学の受け入れ、また三島市地球温暖化防止大会等で、ISO 14001取り組み状況を発表し、環境保全活動をPRできた。

4 その他

昨年(`99/3月)2回目の定期審査を終え、ISO 14001の認証登録を継続する許可を頂きました。また、今年(2000/3月)には更新審査を受審する予定です。

東芝テック株式会社三島事業所は今後も環境保全活動の継続的な改善に取り組み、より良い地球環境の実現と良き企業市民として社会の発展に尽くしていきたいと考えています。

Report 1

東芝テック全景

排水処理場

各職場のリサイクルコーナー

Report 2

グリーン＆クリーンな企業をめざして
～オムロン株式会社三島事業所でのISO 14001認証取得事例～

オムロン株式会社　三島事業所

ISO 14001維持審査

1 はじめに

当社では、環境保全活動について、経営理念に基づき環境宣言を定め、グループ一丸となって取り組んでいます。`95年には国内外生産拠点でのISO 14001認証取得計画を発表、`99年5月までに全生産拠点での認証取得を完了しました。

2 三島事業所のISO 14001認証取得活動

ISO 14001認証取得までの主な経過	
96. 6	環境推進プロジェクト発足
96. 7	三島事業所キックオフ ・環境保全推進委員会発足 ・推進担当者会議発足
96.10	環境側面調査(～97.2)　ISO 14001教育開始
96.12	内部監査員の養成　標準類整備(～97.3)
97. 1	内部環境監査試行
97. 3	第1回内部環境監査
97. 4	第2回内部環境監査
97. 5	全社環境監査
97. 7	第3回内部環境監査
97. 7	BVQIイニシャル審査
97. 8	BVQIメイン審査
97. 9	認証取得

3 現在の主な取り組み

環境方針に掲げているテーマとその主な取り組みは以下の通りです。

(1)電力・ガスの省エネルギーによるCO2排出量削減→総合的省エネ診断をもとに改善策実行
(2)紙資源使用量削減による省資源→業務改善による紙使用削減
(3)再資源化による廃棄物削減→分別と再資源化ルートの開拓
(4)製品アセスメントの実施による工程・製品の環境負荷低減→(開発・設計段階での)源流改善

4 最後に

環境保全活動が日常業務と大きく違うところは、行動が全てプラス方向に作用するところです。つまり、環境保全のアイディアについて、何かを実践したら、それだけ前進できるということです。「システム設計の完成度を高めてから…」とか「実行のための障害を全て取り除いてから…」では、それだけ実行が遅れるということであり、その瞬間にも環境破壊は進行しています。

規格では、システムのスパイラルアップを定めており、絶対的なパフォーマンス基準は要求していません。
従って、「できることから実施」すれば良く、それを継続させていくことが最も重要であると考えます。
また、システムは活用しながら改善していくものであり、一度構築したらおしまいということではありません。
状況に応じ、効果的・効率的に変更していくことが活動の活性化にもつながります。

ISO 14001認証取得は手段であり、目的ではありません。
私たちには、次世代に豊かな、そして美しい地球を残していくための行動が求められています。
当事業所の活動も緒についたばかりであり、地域の皆様、お客様、そして環境保全に貢献していくよう、今後とも努力を続けて参ります。

Report 3

ISO 14001認証取得への歩み

横浜ゴム株式会社　三島工場

ISO 14001維持審査

1 ISO認証取得の経過

第1ステップ
- ISO要求事項の理解……→何を要求しているか
- マニュアルの作成……→要求事項及び工場の実状に合わせたマニュアルの作成
- 要領(規定)の作成……→マニュアルをブレークダウンして新規作成

第2ステップ
- 環境影響評価の実施……→環境側面の抽出と評価
- 環境方針の設定……→要求事項、会社の方針、周囲の状況等を考慮
- 目的・目標の設定……→環境目的・目標の設定と実行計画書の作成
- 教育、自覚啓蒙活動の展開……→ISO要求事項理解、環境に対する自覚
- 手順書の作成……→環境関連業務手順の文書化

第3ステップ
- システムの運用開始……→マニュアル、要領、手順書に基づいた運用開始
- 内部環境監査の実施……→ISO型内部監査の実施
- システムの見直し……→工場長による環境マネジメントシステムの見直し

2 環境マネジメントシステム構築の留意点

(1)組織のトップの決意と全員参加の意識が重要
(2)ISO 14001の要求事項を十分理解すること
(3)ISO 14001の要求事項を確実にマニュアルに落とし込む
(4)環境側面がシステムの出発点

3 苦労した点

環境側面
(1)漏れなく抽出する仕組みの構築と抽出作業
(2)環境改善により評価が変化する仕組み
訓練、自覚及び能力
(1)従業員と構成員の定義、及び訓練のニーズを明確にする
(2)自覚させる手順及び自覚したことの確認方法を明確にすること

4 運用上の留意点

(1)環境目的、目標は技術的、経済的に実行可能なものとする
(2)環境目的、目標を達成する為の環境マネジメントプログラムでは責任者、手段、日程を明確にする
(3)環境目的、目標から逸脱するかも知れない場合の是正の手順を決めておく

5 ISO 14001認証取得マスタープラン

	`97/8	9	10	11	12	`98/1	2	3	4	5	6	7
1.キックオフ/審査	キックオフ 8/29	第10回推進会議へ提案	認証機関との契約10/8	マニュアル審査11/28			予備審査Ⅰ 2/18, 19		予備審査Ⅱ 事前調査 4/16,17	事前審査 5/13, 14, 15	登録審査 6/25, 26	登録日 7/24
2.マニュアル作成		作成			見直し							
3.要領作成			作成:26件			見直し						
4.環境側面の特定と評価		特定			評価							
5.環境方針、目的、目標の設定					環境方針の設定		目的、目標の設定					
6.実行計画書作成												
7.業務手順書の作成							141件					
8.教育												
9.内部環境監査								内部監査 3/24, 27	工場長レビュー 4/13			
10.運用												

私たちは地球の応援団です。

1999年度　106会員で構成

役員名簿

役名	事業所名	代表者氏名
会長	東レ㈱三島工場	福田　晃一
副会長	㈱電業社機械製作所三島事業所	三友　正夫
	山本建設㈱	山本　良一
理事	伊豆総業㈱	山田　良子
	伊豆箱根鉄道㈱	芹沢　暉二
	太田資源㈱	太田　正親
	㈲加藤電化工業所	加藤　守一
	㈱三静工業	白井　正勝
	駿豆建設㈱	山田　守宏
	東芝テック㈱三島事業所	日良　豊
	東邦レーヨン㈱三島工場	中井　秀樹
	中林建設㈱	八巻　清文
	三島工業団地協同組合	後藤　健三郎
	三島沢地工業団地協同組合	片野　勇
	三菱アルミニウム㈱富士製作所	池上　基
	明治ケンコーハム㈱三島工場	大森　泰博
	森永製菓㈱三島工場	香西　正憲
	㈱ヤギシ	矢岸　貞夫
	横浜ゴム㈱三島工場	安田　幸輝
監事	オムロン㈱三島事業所	久保　譲
	㈱平田屋	鈴木　和宏

会員名簿

事業所名
㈱蒼の湖カントリークラブ
㈲東鉱金工業所
㈲天城石材建設
㈱飯田組
㈱池田建築設計事務所
伊豆総業㈱
伊豆箱根鉄道㈱
㈱伊豆味噌醸造所
㈱伊豆ライスセンター
市川メッキ工業所
㈱ＵＥＸ
遠藤工業㈱
太田資源㈱
大三島物産㈱
小野建設㈱
オムロン㈱三島事業所
㈲影山工務店
雅叙園観光㈱三島営業所
㈲加藤電化工業所
加和太建設㈱
㈱きずなフーズ
㈱協和ブレード製作所
㈱グランフィールズ
㈱甲石製餡所
㈱小島屋クリーニング
近藤メッキ工業所
佐藤建設㈱
三共㈱三島工場
三建会
㈱三光ダイカスト工業所
㈱三静工業
㈲塩坂組
静岡ガスエネルギー㈱沼津支店三島営業所
静岡ガス㈱三島支店
静岡県東部食肉センター組合
静岡コンサルタント㈱
シルバー工業㈱
鈴木建設興業㈱
㈱鈴木工務店
駿豆建設㈱
第一段ボール㈱
大興建設㈱
大場建設㈱
㈲中央衛生社
㈱寺岡製作所函南工場
㈱電業社機械製作所三島事業所
東海土建㈱
東海リネンサプライ㈱
東京電力㈱三島営業所
東芝テック㈱三島事業所
㈱ＴＯＳＥＩ
東邦化工建設㈱三島事業所
東邦レーヨン㈱三島工場

事業所名
東レ㈱三島工場
東洋メタライジング㈱三島工場
中林建設㈱
㈱二幸三島工場
㈱にしはらグループ
日清プラザ㈱
ニューデルタ工業㈱
㈱ヌマネツ
㈱ハックキミサワ
㈲晃工業
㈱平田製作所
㈱平田屋
㈱フジカラー三島
富士技建工業㈱
松岡建設㈱
㈱マルサン
丸善工業㈱
三島工業団地協同組合
三島沢地工業団地協同組合
三島商工会議所
三島食品㈱
東京湾観光㈱三島スプリングスカントリー倶楽部
三島土木建築㈱
三島生コン㈱
三島函南農業協同組合
㈱三島木工製作所
三島養豚協議会
三菱アルミニウム㈱富士製作所
㈱宮入製作所
明治ケンコーハム㈱三島工場
森永製菓㈱三島工場
㈱ヤギシ
㈱山田組
山本建設㈱
雪印ローリー㈱静岡工場
横浜ゴム㈱三島工場
和興産業㈱
㈱渡辺工務店
㈲池田静人建設
伊勢久㈱三島営業所
㈱ＮＴＴ－ＭＥ東海　三島営業所
㈱ダイナナ
㈱ダスキン三島
ツバメ自動車㈱
東海電設㈱静岡支社
東洋新虹㈱
㈱ひしや三島プラザホテル
富士コカ・コーラボトリング㈱三島営業所
㈲プランニング　エフ
三島青果㈱
㈱三島中央自動車学校
㈲三島物流
㈱三石電化センター

平成12年3月1日現在

「環境対策先進都市・みしま」を目指して

三島地区環境保全推進協議会の設立２０周年を心からお祝い申し上げます。

私たちのふるさと・みしまは、富士山の湧水、箱根の緑深い自然、そして歴史ある文化のまちです。

私は、先人から受け継いだこのすばらしい環境を、より良いものとして次世代に引き継ぐこと、これは私たちの使命と考えます。

しかし、この大切な自然環境は、私たちの快適で豊かな生活によって、深刻な環境悪化の危機にさらされています。

このため、いろいろな環境対策を最重要施策と位置づけ、人と自然の共生を図るなかでリデュース・リユース・リサイクルを進め、資源循環型社会・ゼロエミッション社会の実現に向けて、積極的に環境保全、環境の創造を推進しております。

今後とも、環境保全に積極的なご尽力をお願いするとともに、貴協議会の益々のご発展をご祈念申し上げます。

三島市長　**小池　政臣**

ISO 14001の認証取得

市役所も経済活動を行う一事業者として、自ら環境への負荷を軽減し、企業や市民の方に対し積極的にその姿勢を示すとともに、環境にやさしい街づくりを進めるため、平成11年4月から環境管理の国際標準規格であるISO 14001の認証取得に取り組んでおります。

できることからまず実践

市長車も低公害車へ

省資源・省エネルギーと地球温暖化防止対策のため、平成10年度に、市長車、助役・収入役共用車、教育長車及び広報車の4台をハイブリッドカーに、環境企画課の公用車を天然ガス車に買い替えました。さらに、平成11年度には、新たに1台の天然ガス車を導入しました。

現在、6台の低公害車を配置していますが、今後も計画的に導入を図っていく予定です。

公用リサイクル自転車の活用

近距離の移動については、公用車から清掃センターでリサイクルした公用リサイクル自転車の利用に切り替えました。当初は48台を各公共施設に配置、今後も各課に配置する予定です。

ダイオキシン対策

平成14年度までに焼却炉の改修を行います。

環境ホルモン対策

小学校給食の食器をポリカーボネート製から強化磁器製に3年間で交換します。

三島市環境基本条例及び三島市環境基本計画の制定

平成12年度に環境施策の指針とする「環境基本条例」の制定を目指しています。また、条例の制定を受け、具体的な計画を盛り込んだ「環境基本計画」の策定に取り組む予定です。

資源循環型の社会

資源循環型の廃棄物処理を目指し、ごみの減量化・資源化を進めるため、資源ごみや資源古紙の分別収集に必要な施設の整備及び回収業務の充実を図っていく予定です。

市役所も全課に紙リサイクルボックスを設置しています。

どうする!?

かけがえのない地球のために 事実があります。

見逃せない

『いま、地球がたいへん!』

たとえば冬、あなたの子供のころと比べて、暖かくなっていると思いませんか。そうです。これは決して気のせいではなく、現実にいま地球は熱くなっているのです。地球の温度は、1万年かかってようやく1度上がったといわれていますが、いまは、10年で0.3度というスピードで高くなっており、そして、このままでいくと100年後には三島の気候は奄美大島の気候になります。このまま温暖化が進んでいくと、砂漠は広がり、森は失われ、冷害や渇水によって作物の被害も大きくなります。

このようなあまりにも早い気象の変化に、地球の生き物は対応できなくなりつつあるのです。私たちは、限られた短い時間の中で気温の上昇速度と戦わなければなりません。これが「たいへん」なのです。

『水と緑に恵まれた豊かなふるさとが消える!』

地球の温暖化に限らず、オゾン層に穴が開いている、酸性雨が降る……などなど「地球が大変だ」といま言われています。しかし地球のこのような困った変化は、どこか遠いところの出来事ではなく、すぐ身近なところでもたくさん起こっているのです。空気の汚れや水の汚れ、ごみが増え続けていることなど、環境の悪化は、私たち自身の暮らしそのものと直接かかわっています。自動車、冷暖房、生活排水、大量生産・大量消費、私たちは便利で快適な生活を求めるあまり、大切なことを見落としてきました。

残念ながら、三島も例外ではありません。水や緑豊かなふるさとが無くなってしまうとしたら…かけがえのない地球、かけがえのないふるさと。環境の悪化に少しでも歯止めをかけるために、いま「環境にやさしい生活」という新しいライフスタイルが強く求められています。

まずは身近なところから…
私たちと一緒にはじめましょう。

食べ残しの小皿の醤油を、魚が住めるくらいにきれいにするには、普通の浴槽1杯半分の水が必要です。マヨネーズだとなんと8杯分もの水が必要となるのです。私たちは、台所の排水がどこへ流れていっているのか、そしてそれがやがてどんな結果をもたらすのかなど、ほとんど気にもかけないで暮らしています。まずは暮らしの中の問題点を知ること、それが環境を考えるうえでの第1歩です。

あなたは髪を洗うとき、水を流し放しにしていませんか。人のいない部屋、あかりがついていませんか。これは「無駄」です。「無駄」を無くすこと、これが第2歩です。

たった1本の樹木でも1日700ℓの二酸化炭素（CO_2）を吸収してくれます。植物を育てCO_2を減らすこと、これが第3歩です。

自然を愛し、自然に親しみ、自然に感謝する心。そんな私たちの気持ちが次世代を担う子供たちへの最良の教育となります。良い環境は、さらに良い環境を生みます。まずは身近なところから1歩ずつ、ほんのわずかな気づかいが絶大な効果を生むことを知り、実行したいものです。

三島地区環境保全推進協議会

私たちは、昭和54年4月に設置された、環境を大切に考える会社および団体の集まりです。
身近な環境保全のために、ボランティア活動や講演会・研修会の実施、
県内外の環境先進地の視察、情報誌「保全協だより」の発行など、年間を通して盛りだくさんに活動しています。
考えは地球規模で、行動は足元から…私たち保全協と一緒に環境を考えてみませんか。

【保全協事務局】 三島市　環境企画課　環境保全係
【連　絡　先】 0559-75-3111　内線327

地球のために 未来のために いま 私たちができること。

三島地区環境保全推進協議会